

〈新刊紹介〉

片岡 了 編著

『大谷大学本 節用集 研究並びに総合索引』

『大谷大学本節用集』は、数少ない古本系節用集の一本として知られているものである。「大谷本」はいわゆる伊勢本系の本と考えられ、正宗文庫本と近い関係にあり、橋本進吉博士のいわゆる「天正二十年本類」に属すると見られている。因みにいえば『節用集』は、その原本が文明年間を少しさかのぼる頃に作られた、室町時代の通俗語彙の辞書で、「節用」とは「しよつちゅう」「不断」の意と解されている。その古本系諸本は橋本進吉博士によって、その「イ」部天地門初出の語が、「伊勢」で始まるか、「印度」で始まるか、「乾」で始まるかによって、「伊勢本」・「印度本」・「乾本」の三種類に系統立てられている。そして、「伊勢本」の原本が、「節用集」全体の原型をなすと考えられている。現在すでに、伊勢本系の古本のうちの数本が複製刊行せられているが、今回「大谷本」が加わったことは、室町時代語研究の上から、また、古本節用集の比較研究の上からも有意義なことである。この『大谷大学本節用集研究並びに総合索引』は、はじめに原本の写真版を掲げ、それに、漢字索引と、仮名索引が附せられ、その後に書誌的解題と、音韻・語彙・語法などの面からの研究が

加えられている。写真版で誤読のおそれのある部分については、巻末に、写真版と原本との対照表が示されていて、原本の姿がくわしく知られるように組まれている。

『節用集』の索引は従来すでに十指に余るものが刊行せられているが、今迄のものは、仮名索引だけであった。ところが、実際に使用する立場からすると、或る資料に現われた漢字ないし漢字連結が当時のように読まれたか、つまり、漢字で表記せられているが、それが当時のどういう日本語に対応するのかが判然せぬ場合があった。例えば「直平」という漢字連結がある。これは普通の漢和字典にはこのままの形では出ていない。『節用集』ではこれを「ヒタスラ」と訓じている。「ひたすら」という倭語に「直平」という漢字表記をあてたのである。また、「干城」という語がある。この方は普通の漢和字典にも登載せられている。が、ここでは「カンジョウ」という音読があてられており、「たて」と「しろ」の意で、「国を守るもの」とか、転じて「軍人」の意であるとする。それは当然であって、この語は元来、『論語』などに出現のある「漢語」なのである。ところが、室町期には、これを日本語の「ヤグラ」にあてている。そして、「或、城楼_ト作_ル、又楼_ト作_ル、又矢藏_ト作_ル」と注している。判って見れば、いずれも平凡な日本語なのであるが、それがたどられるためには漢字の側からの検索が必要である。今回の漢字索引はその欠を補うもので、中世資料を扱う上に便利である。

(後小路薫)

(A5版・三七六頁・一九八二年四月・勉誠社・八五〇〇円)